地域におけるびんリユースの展開

～リユースびん入り大和茶『と、わ（To WA）』の活動を通して～

World Seed　副代表理事　中島　光

リユースびん普及促進事業

■地方公共団体が開催する公共施設内会議等において、リユースびん入り商品を　普及することより、びんリユースの推進と視覚的にリユースイメージの訴求が可能。

※平成24年度～平成26年度 「環境省 びんリユースシステム促進実証事業」採択事業

新たなリユースびん入り商品の開発

- 地方公共団体と連携しくリユースびん入り大和茶『と、わ（To WA）』を開発

びんリユースシステムの構築

- リユースびん入り商品の安定的な供給・確実な空きびんの回収を実現

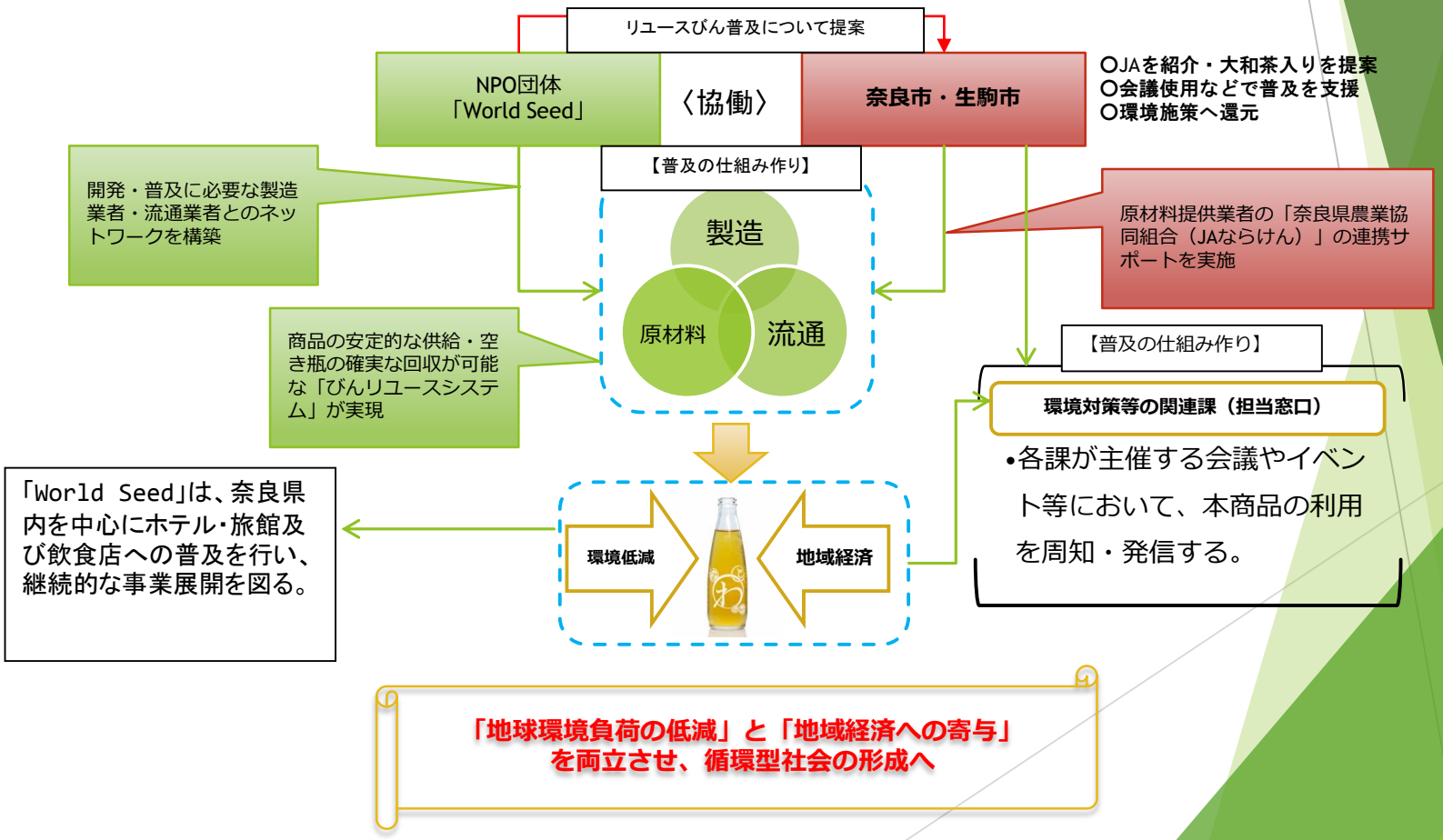
本商品の普及促進

- 関係諸団体と連携しながら、本商品を普及し、循環型社会形成に寄与

新たなリユースびん入り商品の開発

リユースびん入り大和茶『と、わ（To WA）』の誕生

- 奈良市・生駒市と協働で本商品を開発



リユースびん入り大和茶『と、わ（ToWA）』について

- **普及対象**

⇒主に奈良県を中心とする地方公共団体、ホテル・旅館・飲食店等

- **特色**

⇒奈良県特産の大和茶（やまとちゃ）を使用し、地球環境負荷低減だけでなく、地域経済振興へも寄与

- **コンセプト**

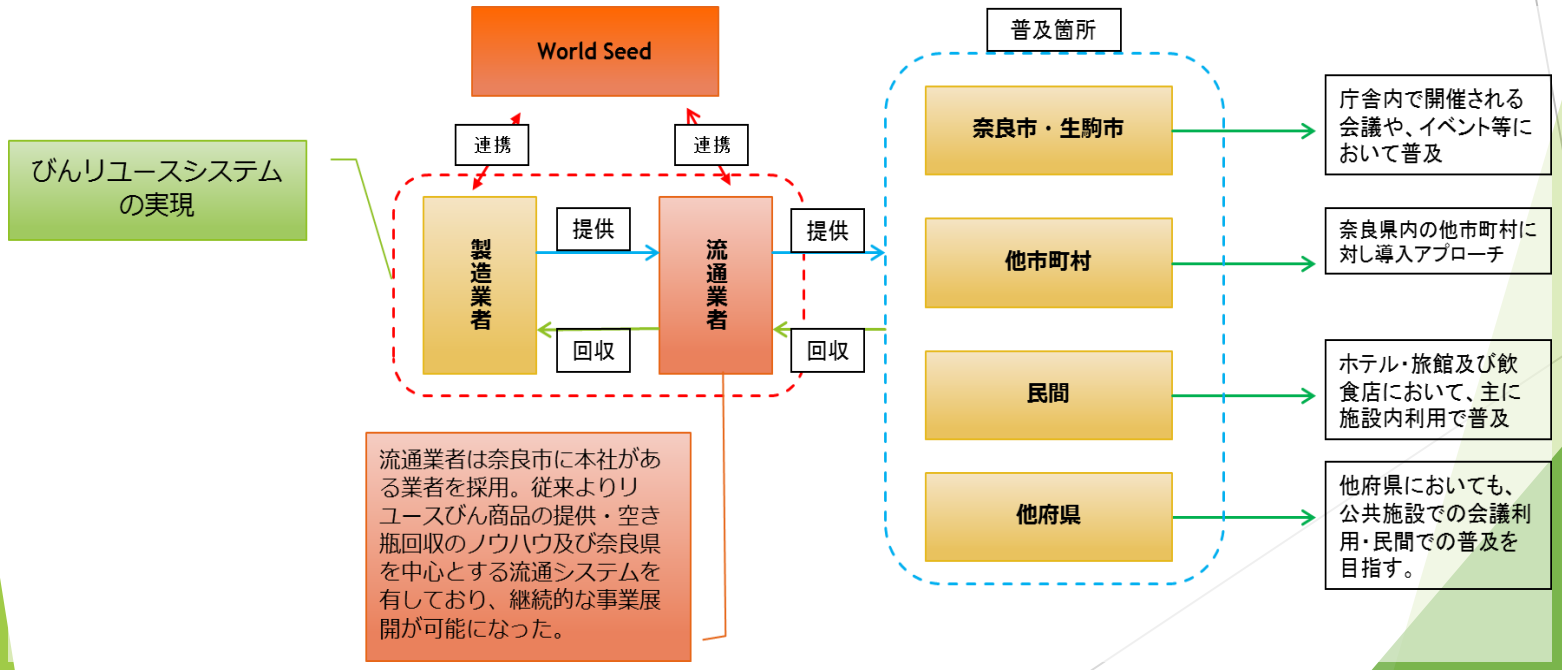
⇒「ひと」と「ひと」を繋ぐ。めぐり、めぐる社会の実現。

●びん：Rドロップス2号220ml
●原材料名：緑茶（奈良県産大和茶）ビタミンC

びんリユースシステムの構築

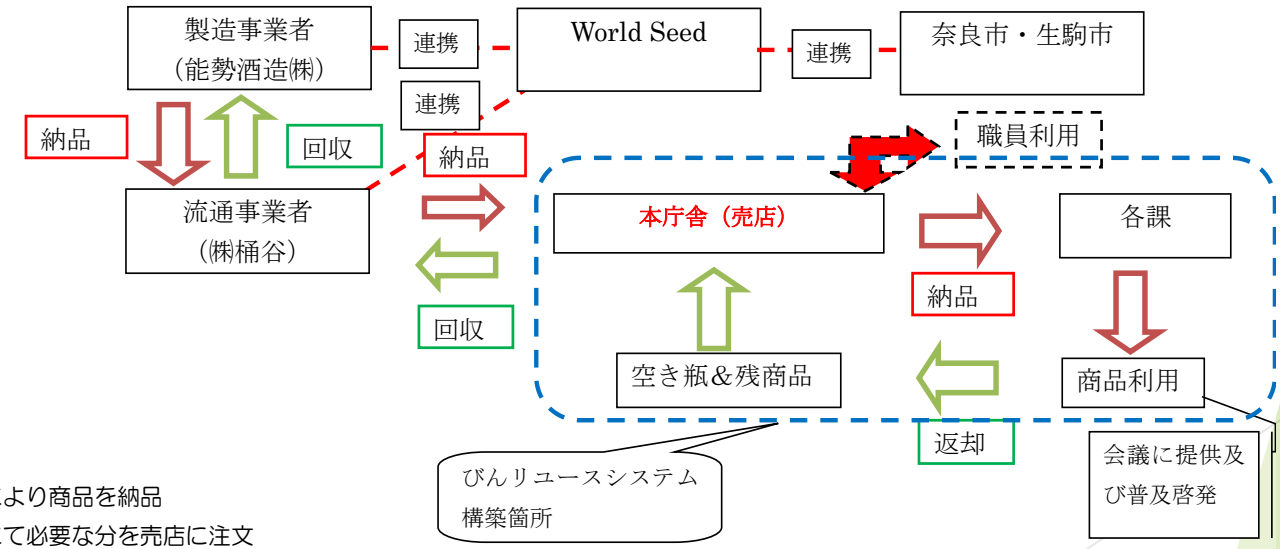
- 流通システムの確立

リユースびん入り商品において、関連事業者とのネットワーク構築により、商品の安定的な供給・空き瓶の確実な回収が可能になった。



本商品の普及促進
（地方公共団体との連携構築・びんリユース導入）

- 奈良市・生駒市と連携体制を構築し、公共施設内会議等で本商品を利用可能とするびんリユース導入を行った。
- 平成25年1月より奈良市・生駒市は、会議等で率先した本商品の利用を市として表明し、利用を開始



●売店の発注により商品を納品
●各課の会議にて必要な分を売店に注文
●会議終了後、空き瓶及び残商品を売店に返却
●一定期間の後、次回商品搬入時に空き瓶を回収

普及事例

- 公共施設

  奈良県奈良市、生駒市、橿原市

  大阪府豊中市

環境首都創造　自治体全国フォーラム
2012　in 生駒での導入風景

- ホテル・飲食店

飲食店での導入風景

大和茶『と、わ（To WA）』の情報発信

- ３R推進協議会会長賞を受賞

  NPO団体「World Seed」が３R推進協議会主催「３R推進功労者等表彰」で会長賞を受賞。

- 「2014年版　こども環境白書」にて取組掲載

- 国の会議での利用

- 中央環境審議会循環型社会部会容器包装の３R推進に関する小委員会及び産業構造審議会産業技術環境分科会・リサイクルワーキンググループ第1回合同会合において本商品の会議利用。
- 『国連「ESDの10年」後の環境教育推進方策懇談会』において本商品の会議利用

これまでとこれから

◆ 2012年11月に販売を開始。2019年11月で丸７年が経過し、現在も奈良県を中心とする近畿圏で販売を継続中。
◆ 累計販売本数は、92,301本（2012年11月21日～2019年11月末）。
◆ 飲食店・旅館を中心とするクローズドマーケットでの展開で高い空きびん回収率を維持。なお、７年が経過したことで、本年11月に約2,000本の新びんを調達（Ｒドロップス２号既存在庫を活用）

2012年3月～2012年11月

事業の構想立案、リユースびん入り大和茶『と、わ（Ｔｏ　ＷＡ）』のデザインコンペを開催し、本取組みを広く周知。2012年11月より販売開始。

2012年11月～2016年3月

流通販売元の株式会社桶谷と連携し、奈良県を中心とする飲食店・旅館等へ営業展開。
奈良県生駒市・奈良市、大阪府豊中市、兵庫県神戸市等でも公共施設内での会議用飲料として利用を開始。

2016年4月～2019年現在

商品としての販売数量が株式会社桶谷の商流に乗ったことから、販売権限を同社に一任。World Seedは企画元として事業全体の管理、情報発信を行う。

これから

今後も飲食店・旅館を中心に販売を継続しつつ、本取組み事例の情報発信に努めていきたい。

御清聴誠にありがとうございました。

World Seed　副代表理事　中島　光